

## 横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に基づく 令和4年度の実施状況について

- 1 脱炭素社会の形成の推進に関する施策の実施状況について ..... 2

### 【掲載取組】

基本方針名	報告書 掲載頁
(1) 基本方針1 環境と経済の好循環の創出	8頁
(2) 基本方針6 市役所の率先行動	46頁
(3) 基本方針7 気候変動の影響への適応	59頁

# 1 脱炭素社会の形成の推進に関する施策の実施状況について

## (1) 基本方針1 環境と経済の好循環の創出

### 取組実績、今後の取組

#### 1 国や産業界と連携した横浜臨海部における脱炭素イノベーションの創出・カーボンニュートラルポートの形成

- カーボンニュートラルポート(CNP)の形成に向け、臨海部の事業者、学識経験者と情報共有し、連携し脱炭素化の取組を促進するため協議会を設立し、臨海部における2030年度のCO<sub>2</sub>排出量の削減目標を定めました。また、CNPの実現に向け、川崎市と茨城県との連携協定、ロサンゼルス港と覚書を締結しました。さらに、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの受託業務「横浜港における水素利活用ポテンシャル調査」を完成させ、結果を発表しました。
- 埠頭における脱炭素化の取組は、横浜川崎国際港湾株式会社と横浜港埠頭株式会社が港湾施設の電力を再生可能エネルギー由来の電力に切り換えました。また、東京汽船株式会社が全電気推進タグボートの供用を開始、日本郵船株式会社、株式会社IHI原動機等と、アンモニア燃料タグボートの円滑な受入れ等に関する覚書を締結、さらに、本牧ふ頭で陸上電力供給設備の整備に着手しました。引き続き、CNPの形成に向けた取組を推進します。

(2) 基本方針6 市役所の率先行動  
局・統括本部ごとの取組実績等

港湾局

- 2021(令和3)年度の温室効果ガス排出量は、2013年度比45.3%減の0.6万トンとなりました。
- 2022(令和4)年度のエネルギー消費量は、2013年度比35.8%減の132TJとなりました。
- 2022(令和4)年度は、金沢白帆緑地(横浜ベイサイドマリーナ地区)や八景島、山下臨港線プロムナードなどでLED等高効率照明を導入し、LED化率は15%となりました。
- 横浜港流通センター及び大黒心頭T-4号上屋に太陽光発電設備を導入しています。
- 一般公用車26台のうち、2022(令和4)年度は3台の次世代自動車等を導入し17台となり、割合は65%となりました。
- 局内における会議や打ち合わせでの積極的なペーパーレス化や、海洋環境保護の取組を市民の皆様にお伝えするイベント「うみ博」や「東京湾大感謝祭」への出展に職員が主体となって取り組むなど、職員への温暖化対策の取組に対する意識啓発を図りました。
- 物品等の購入の際のグリーン購入法に基づく適合品調達率は100%を達成しました。

<温室効果ガス排出量の状況> (単位:万t-CO<sub>2</sub>)

基準年度 (2013)	2019年度	2020年度	2021年度	
	実績	実績	実績	増減率 基準年度比
1.10	0.67	0.57	0.60	▲45.3%

<エネルギー消費量の状況> (単位:TJ)

基準年度 (2013)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	実績	実績	実績	実績	増減率 基準年度比
205	146	127	130	132	▲35.8%

<公共建築物の新築・改修等における取組(LED等高効率照明の導入状況)>

全灯数 (2022年度)	LED等高効率照明の導入割合の推移			
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
29,127	9%	12%	13%	15%

<再エネの導入拡大に向けた取組(太陽光発電設備の導入状況)>  
設置済施設数(2022年度): 2施設

<公用車における取組(一般公用車における次世代自動車等の導入状況)>

一般公用車の 台数 (2022年度)	次世代自動車等の導入割合の推移			
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
26	33%	48%	50%	65%

※2022年度の次世代自動車等の台数 EV:0台、PHV:6台、FCV:1台、HV:10台

### (3)基本方針7 気候変動の影響への適応

#### 取組実績、今後の取組

##### 1 農業・自然環境分野の適応策の推進

- 新本牧ふ頭では、生物共生型護岸の整備を進めており、進捗率は約 5 割となっています。また、杉と同程度の CO<sub>2</sub> を吸収するブルーカーボンとしての藻場・浅場の形成について、臨港パーク先端部の整備に着手しました。さらに、環境保全の取組として、NPO・市民団体等により金沢区白帆地区等でアマモの種まきや移植を行う「UMI プロジェクト」が開催(計 5 回)され、臨港パーク前では、ワカメの種付けや収穫を行う「夢ワカメ・ワークショップ」が開催されました。引き続き、ブルーカーボンの拡大を進めます。

##### 2 風水害・土砂災害等分野の適応策の推進

- 2019(令和元)年の台風により甚大な被害を受けた金沢区福浦・幸浦地区の護岸は、想定し得る最大の高潮、高波による浸水を防ぐことができる護岸として復旧するとともに、海の景色を眺めながら散策や釣りができる遊歩道を整備しました。また、数十年に一回の頻度で発生する防護レベルの津波や高潮、高波からの被害を防ぐため、大黒ふ頭地区において護岸の嵩上げを基本とした海岸保全施設の整備を進めました。引き続き、防災力の向上に取り組み、安全で安心な港づくりを進めます。